

## 1. はじめに

この行政評価は、効率的で効果的な行政運営を推進するために、宮田村が行う事務事業を評価するもので、むらづくり基本条例に規定されています。

当評価委員会で行う評価は、行政自らが行った「内部評価」の結果を受けて実施する「外部評価」として位置づけられており、宮田村が平成30年度に実施した内部評価である事務事業評価結果を基に評価を行ったものです。また評価に加え、効率的で効果的な事業の推進を図るための提言も含め、後述のとおり取りまとめました。

なお、評価委員会の構成は以下のとおりです。

委員長	神谷正紀（税理士法人さくら中央会計 代表）
	山本哲也（八十二銀行 宮田支店長）
	桐山文仁（アルプス中央信用金庫 宮田支店長）
	小林久人（JA 上伊那 宮田支所長）
	竹松康弘（宮田村商工会 事務局長）
	千頭 聡（日本福祉大学 教授）
	中塚美佳（むらづくり委員会）
	中谷洋子（公募）

## 2. 評価の日程と方法

評価の日程と評価の方法は、以下及び別紙「評価結果シート」のとおりです。

- ・第1回行政評価委員会 平成30年 9月 5日 午後1時～3時  
（評価事業：結婚サポート事業／定住促進事業／地域活性化事業）
- ・第2回行政評価委員会 平成30年 9月 26日 午後1時～3時  
（評価事業：農業環境対策事業／商工総務事務／観光振興事業）
- ・第3回行政評価委員会 平成30年 10月 15日 午後1時～3時  
（障がい者自立支援給付事業／非常備消防事業／図書館管理運営事務）
- ・第4回行政評価委員会 平成30年 11月 9日 午後1時～3時  
（評価のまとめ／報告書の作成）

### 3. 評価の総括

今年度は、村で実施した全 177 事業の評価シートの中から、9 事業を行政評価委員が選定して評価を行いました。本項では、その中で上げられた評価全体に関する総体的な課題などについてまとめました。

#### (1) 評価方法の検討

行政評価は、サービス受給者（住民）としての評価に加え、受給者以外の視点による客観的な評価ができる仕組みとして整備されていることが重要だと考えます。その面では、本委員会の構成メンバーによる行政評価は、有意義な取り組みであると評価しています。

しかしその反面、各担当者から、わずかな時間で事務事業の説明を受け、数問の質疑をしたのみで、事業全体の評価を下してしまうことに疑問も感じています。行政評価のもうひとつの目的でもある、実施した事業に対する説明責任を果たすといった意味からも、短時間でも分かりやすく端的に事業内容や成果伝えた上で評価ができるよう、内部評価の方法も含め検討を続けてください。

#### (2) 評価対象事業の検討

評価対象となっている事務事業の中には、法律により実施することが決められているもの、国や県からの委嘱により村が行っている事業があります。これらの事業は内部評価も含め、評価が必要なのか疑問を感じました。

また、複数の事業をトータル的に見ることで、ようやくその効果を計ることができる事業も多くあると感じました。

より効率的、効果的な評価制度とするために、評価対象とする事業の選択方法についても次年度に向け検討を進める必要があります。

#### (3) 評価結果の反映

評価制度の目的は、計画し実施した事業を評価することにより「改善」に結びつける、いわゆる PDCA サイクルを確立することにあります。

確立されつつある評価までのプロセスに加え、最重要とも言える改善の部分まで「見える化」されたシステムとなるよう、様式や会議の持ち方も含め検討をお願いします。

### 4. 評価結果

別紙「評価結果シート」のとおりです。

# 評価結果シート

【平成30年度 行政評価委員会】

## 宮田村行政評価の方法

### I. 各項目評価

以下の評価項目ごと 5 段階で評価し、その理由を記載する

① 必要性 → ア・イの2つを総合的に評価

ア：事業に対する住民のニーズは 【5：極めて高い ⇔ 1：かなり低い】

イ：村が実施すべき事業か 【5：法令等で決まっている ⇔ 1：全移管可】

② 有効性 【5：かなり効果がある ⇔ 1：ほとんど効果なし】

③ 効率性 人的・予算的措置は適当か

【5：コスト削減の余地なし ⇔ 1：大幅に削減可】

④ 優先性 予算総額が大幅に削減されると仮定した場合に…

【5：他事業より優先して実施 ⇔ 1：廃止する】

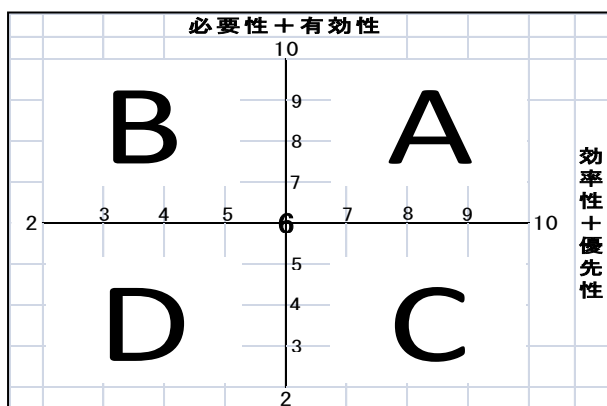
### II. 総合判定

1. 下グラフ縦軸：①必要性と②有効性の合計値をチェック

2. 下グラフ横軸：③効率性と④優先性の合計値をチェック

3. 縦軸と横軸のチェックが交わる領域（A・B・C・D）を総合判定値とする

※交点が線上の場合は、各委員の判断によりいずれかを判定値とする



各領域	今後の方向性
A=現状維持	現事業どおりに実施
B=改善	事業の進め方の改善
C=縮小・見直し	事業規模・事業主体の見直し
D=廃止	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討

### III. 委員会としての評価決定

各委員の評価結果を取りまとめ、議論の結果として評価を決定する

※参考：評価時間 事業説明（10分）→質疑応答（20分）→シートへ記入（5分）

→まとめ・評価決定（10分）

【1事業 45分】

事務事業名	結婚サポート事業				
担当課	みらい創造課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		6人	2人		
総合判定 所見	<p>人口減少、少子化対策のひとつとして、婚姻率の向上は喫緊の課題と考えます。企業や関連団体との提携強化や、明確なターゲット設定などにより、より有効性のある事業となるよう、継続して取り組む必要があります。また、事業実施とあわせて、事業後のフォローアップや事業効果の検証についても留意の上、実施していく必要があると考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.5	3.1	3.9	3.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚活に関する事業はすぐに結果が出るものではない。長期にわたり継続して取り組むことが重要。また、マッチングが成功した後のフォローアップが大切である。</li> <li>・イベント等への参加人数が少ない。出会いの場をより多く提供することが重要。</li> <li>・参加者を増やすためのPRや工夫が必要。もっとフランクに参加できるイベントなど、独身者が参加しやすいようなものを。</li> <li>・婚活に興味のない人たちへどうアプローチをするかが重要。</li> <li>・単一の自治体だけでは限界があると感じる。近隣市町村などと協力して、より広域的な事業を展開していくべきでは。</li> <li>・こうしたイベントに参加したいといっている人は潜在的に多いと思うが、「婚活」と言われると行きづらい人は少なからずいると思う。</li> <li>・なかなか成果につながらない自治体も多い中、成果を上げている自治体は、企業、企業の組合などと連携して行っている。</li> <li>・ターゲットは誰なのかが不明確だと感じる。例えば、村内男性に特化するなど、ある意味では選択と集中が必要なのでは。</li> <li>・親世代が婚活に関する知識や考え方がしっかりしていないと感じる。親に対する教育も必要では。</li> <li>・何かを一緒に体験できたり、共有できたりするイベントは非常に効果的だと思う。さらに、魅力的なイベント内容であれば、参加者も増えるのでは。</li> <li>・マッチング支援員も現在は1人だけだが、2人、3人いてもいいと思う。</li> <li>・婚活サポートに係る、補助制度や縁結び支援員への成婚報酬等を広く周知することで、婚活サポートのモチベーション向上につながると思う。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業などとの連携強化</li> <li>・ターゲットの選択と集中</li> <li>・体験の共有ができるイベントの開催</li> </ul>				

事務事業名	定住促進事業				
担当課	みらい創造課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	<p>人口減少対策のひとつとして、今後も力を入れて取り組むべき事業と考えます。相談会などへの参加から宮田村への移住に繋がる例も多くなってきていて、効果が上がってきていることが確認できます。今後もニーズを捉え、有効的な施策を展開していく必要があります。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.8	4.0	3.9	4.0	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮田村のコンパクトさは大きな魅力。リニア開通や三遠南信自動車道の開通を見据え、力を入れて取り組むべき事業である。</li> <li>・移住する上で一番ネックになるのが仕事だと思う。働き口があることをしっかり伝えることが重要。就活バスツアーなどはとてもいい取組である。</li> <li>・セミナーでの相談から移住に結びついたケースが多いと感じる。効果的に事業を行っていると思う。</li> <li>・乱開発や田畑の減少も危惧している。長期的目線に立って、計画的に土地の整備などを行ってほしい。</li> <li>・移住セミナーなどで、村の状況や悪い点もしっかり伝えたほうが良い。</li> <li>・メディアを上手く活用したPRなどができており効果的に事業を実施している。</li> <li>・農家のインターン件数も比較的多いが住む場所が見つからない、もしくは良い物件が少ないのが課題。特に若い人が多く悩んでる。そうした人たちに上手く住まいを提供できるような施策がほしい。</li> <li>・行政の取組が上手く成果を出している。空き家バンクの成立件数も他の自治体に比べ多い。今後は特に単身での移住者の定着・定住のためのフォローについても注力してほしい。</li> <li>・農業関係団体をはじめ、各種団体と連携を取りながら事業を進めてほしい。</li> <li>・魅力ある企業や仕事先があることもPRしていけると良い。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業Iターン希望者向けの住宅紹介制度</li> </ul>				

事務事業名	地域活性化事業				
担当課	みらい創造課				
総合判定	C	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
			2人	5人	1人
総合判定 所見	具体的な活動、成果が見えない。今後も事業を継続するのであれば、任務を具体的に示した募集をし、受け入れる側の体制をきちんと整備してから実施すべきだと考えます。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.1	2.8	2.9	2.9	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動が見えてこない。協力隊員の顔もわからない。もっと地域へ出ていき顔を見せるべき。</li> <li>・協力隊員本人の資質によるものが大きいと思う。しかし、行政としても隊員の活動をフォローアップできるような体制を整えていくべき。</li> <li>・宮田村に住みたい来ていない人が多い印象を受ける。中には宮田村を知る気がない、興味がないのではないかと思うような人もいる。協力隊員を採用するときいろいろと検討すべきことがあったように思う。</li> <li>・私が一緒に活動している協力隊員は宮田村のことをとても好きだといって積極的に活動してくれている。そうした輝いている人もいる。そうした若い人の意見はとても参考になる。</li> <li>・他の自治体を見ても協力隊の成功例は少ない。本人の資質による部分も大きいを受け入れる自治体側の体制が不十分という課題もある。宮田村には、地域に根付きつつある隊員もいるのでその点は評価できる。</li> <li>・各隊員の配属先、例えば新規就農の隊員なら農政係など配属先から隊員の活動を評価する仕組みがあると事業がより有意義なものになると思う。</li> <li>・隊員本人が評価をするような仕組みがあってもよいのでは。</li> <li>・採用担当者の目利き力を高め、資質ある人を採用できるようにしてほしい。</li> <li>・この制度がうまくいけば、村ももっとよくなると思うので、今後の活動に期待をしている。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を評価する仕組みの構築</li> <li>・協力隊員の採用にあたっての基準や条件の見直し</li> <li>・協力隊員の活動についての積極的なPR</li> </ul>				

事務事業名	農業環境対策事業				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		6人			
総合判定 所見	<p>良好な農環境を維持していくために、必要かつ有効な事業と考えます。ただし、趣旨を理解して活動にあたっている人が少なく思えるため、広報活動などにより活動趣旨の浸透や、農環境を守る機運を醸成を図ることにより、より効果的、効率的な事業展開ができると考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.5	3.9	3.5	4.0	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こうした補助制度があるのはありがたい。農家にとっては必要な事業である。</li> <li>・地区の住民が協力し合い、自分たちの田畑の守っていくということが重要。そういった機運を高めるためにも必要な事業。</li> <li>・こうした活動に参加している人を見ると、若いお母さんや親子連れの方たちなど幅広い住民の方たちが参加している。ただし、農業環境の維持という目的を意識して活動している方は少ないように思う。活動の趣旨や重要性を意識付ける広報が不十分に感じる。</li> <li>・道普請等の地区行事とすみ分けをしたほうがいい。農業環境に資する事業だということに参加者が理解して参加することが重要。</li> <li>・田園の環境を整備することで蛍の集まる小川を作ってみたりだとか、新たな付加価値を見出すこともできるのではないかな。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動により活動趣旨の浸透を図る</li> <li>・住民が幅広く参加することができるような仕組みづくり</li> </ul>				



事務事業名	商工総務事務				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人		1人	
総合判定 所見	<p>交流人口の増加、企業誘致に向け、もっと予算をかけて積極的に実施すべき事業と考えます。総花的ではなく、ある程度の選択と集中を行うことで、より効率的で有効的な事業展開を図ることができるものと考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.1	3.0	3.3	3.2	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮田村は土地も少なく、企業丸々誘致するのは難しいので、宮田村の素晴らしい環境などを売りにIT企業や企業の開発部門のみの誘致などを進めたほうが良いのでは。</li> <li>・IT企業やテレワークであれば、ネット環境があればどこでもできる仕事が多いため誘致しやすいのでは。</li> <li>・もっとしっかりと予算をかけて食欲に對外的にPRを行っていくべき。</li> <li>・細かな施策をバラバラに行うのではなく、ある程度集中的に事業を実施していく必要があるのではないか。</li> <li>・宮田村には目立つお祭りやイベント、目玉となる特産品があまりない。</li> <li>・地元では目立たないありふれた特産品でも、県外で売れば即完売の大盛況になることもある。大切なのはその味を覚えてもらうことだ。</li> <li>・中学生が修学旅行の際に京都駅で宮田村の特産品のPRをしている。こういった事業を行っている自治体は少ないと思う。面白い取組だと思うし、継続して行ってほしい。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT企業やテレワーク、企業の開発部門の誘致など、宮田村の環境を売りにした企業誘致戦略</li> <li>・中学生によるPR事業は、中学生の育成という意味も持たせ継続、拡大をしてほしい</li> </ul>				

事務事業名	観光振興事業				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人	1人		
総合判定 所見	<p>交流人口の増加に向け、本事業の必要性は高いと考えます。モノからコトへ消費動向が変化している中、ニーズをしっかりと把握し、方向性をしっかりと定めた上で集中投資することが必要だと考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.3	3.0	3.2	3.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい広場など地元民が憩える場の整備が重要。パーゴラの設置は良かったと思う。ふれあい広場を観光の拠点として整備していくとよいのでは。</li> <li>・観光にしても宮田村には目立つものがない。</li> <li>・モノの消費からコトの消費へ時代は変わっている。ハードを整備するのはいいが、そこにニーズがあるかどうかをしっかりと把握してから事業を実施するべき。</li> <li>・センターハウスを活用して“グランピング”ができるようにすれば魅力的では。</li> <li>・ふれあい広場やアサギマダラの里など、あの周辺は人が集まるスポットが多い。だが周辺にお店が少なく、お金を落としてもらう機会を逃しているようでもったいない。</li> <li>・宮田高原まで行かなくてもふれあい広場周辺でキャンプができたほうが手軽か。</li> <li>・どこにでもあるようなキャンプ場を作っても人は来てくれない。方向性をしっかりと決めて、集中投資することが必要だと思う。</li> <li>・ハード整備だけではなく、ハードを活用したイベント開催等、ソフト面の充実を検討していくべき。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい広場、アサギマダラの里周辺の活用</li> <li>・宮田高原センターハウスを活用した事業展開</li> <li>・既存のハードを活用した、ソフト事業の拡充</li> </ul>				

事務事業名	障がい者自立支援給付事業				
担当課	福祉課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人			
総合判定 所見	<p>必要なサービスを受けられるよう支援する事業として、必要性、有効性ともに高いと考えます。村内でカバーできるサービスの提供状況や、増え続ける給付費の内訳などをデータ化し対策を図ることが必要と考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.6	4.4	3.6	4.2	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体利用者のうちどの程度を宮田村の事業所でカバーできているのかデータが必要だと思う。</li> <li>・必要性は十分にある事業だとは思いますが、国県の補助に基づいた事業であるため、効率性の判断はできかねる。現状の資料では予算配分が適正なのか、また削減の余地があるのかということが判断できない。</li> <li>・村内で受けることができるサービスが減ることで、利用者に新たな負担が生じる。恒久的なサービス提供の必要性を感じる。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況のデータ化</li> </ul>				

事務事業名	非常備消防事業				
担当課	総務課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人			
総合判定 所見	<p>新入団員の確保が厳しい状況にある中、定員を継続してきていることを評価します。団員の確保に向け、団員が感じる消防団の魅力を、次代を担う子どもたちに積極的にアピールするとともに、時代に合った活動としていくことも必要だと考えます。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.0	3.6	3.4	4.0	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定数を満たしている努力は評価に値する。出動件数が少ないこともいいこと。</li> <li>・女性団員も一定数いるのは評価できる。</li> <li>・伝統を守ることも大事だが、現代の若者に合わない部分もあるように感じる。</li> <li>・出初め式や保育園で子どもたちへのアピールをしていることは良い取り組みだ。今後も続けていってほしい。</li> <li>・消防団員が感じる消防団の魅力を積極的にアピールしてほしい。</li> <li>・定数の見直しを行った方がいいのではないか。</li> <li>・男性団員の場合で、特に結婚して子どもが小さい等の家庭だと家族にかかる負担がとても大きい。家族への負担軽減について検討してほしい。</li> <li>・地区として消防団を応援できるような仕組みがるといいと思う。</li> <li>・大規模災害時などには、実際に地域をよく知る消防団の活躍があったからこそ助かった命もあると聞く。まさに消防団は地域を守る要である。</li> <li>・県は企業に対して、消防団員が勤務している場合、税金面での優遇がある。村でもそういった優遇措置があればいいと思う。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団員加入世帯への負担軽減策</li> <li>・地区として消防団員世帯を支援、認知してもらえるよう働きかける</li> </ul>				

事務事業名	図書館管理運営事務				
担当課	教育委員会				
総合判定	<b>B</b>	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		2人	3人		
総合判定 所見	評価シートからは、1日あたりの利用者数など基礎的データと、それに基づいた戦略がみえてこない。利用者促進に向けた、図書館としての狙いを持ってPRを進めてほしい。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	<b>3.6</b>	<b>3.0</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせのボランティアなどは学校や学生を対象にボランティア募集を図るといいと思う。</li> <li>・本の読み聞かせなどは幼児教育の一環として、とても重要である。是非続けてほしい。</li> <li>・評価にあたり図書館の1日当たりの利用者数が何人かといったデータが欲しい。</li> <li>・利用促進のための戦略が見えてこない。図書館としての戦略や狙い、利用者に係る資料、データがあると評価しやすい。図書館の魅力をもっとPRしてほしい。</li> <li>・史書や歴史的な文献等はデジタル化を進めていくべき。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズをつかみ、戦略を立てるための現状把握(利用状況のデータ化)</li> <li>・読み聞かせのボランティアを学生などのからも募って事業に関わってもら</li> <li>・史書等のデジタル化の推進</li> </ul>				